人文科学府　歴史空間論専攻　修士課程　　人文科学府　歴史空間論専攻　博士後期課程　　プログラム名：人文基礎

到達目標	到達目標			修士課程1年	修士課程2年
B-2-1.（知識・理解の深化と統合）専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、高度に専門的な知識を有機的に総合できる。 B-2-2.（独創性）新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示できる。 C.（他者を尊重する公平な姿勢）先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成し、高度な学術研究に貢献することができる。	B-1.（知識・理解の深化と統合）専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、高度に専門的な知識を有機的に総合し、大きな規模で、提示できる。 B-2.（独創性）新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を体系的に提示できる。 C.（他者を尊重する公平な姿勢）先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成し、その分野の学術研究を先導する貢献をすることができる。		＜共通＞	論文指導 修士論文	
A-2.（専修分野の知識と理解）日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を説明できる。 B-1-1.（資料体の構築）歴史空間論の領域に関する文献や一次資料、調査データを収集・分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。 B-1-2.（実証的な歴史像、歴史・地理認識の提示）収集した史資料・データを文献史学・考古学・地理学的な方法論にもとづいて的確に分析し、実証的な歴史像および歴史・地域認識を提示することができる。 B-1-3.（書誌作成）関連する先行研究について必要な書誌を作成できる。 B-1-4.（表現力）他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、研究成果を学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。 B-1-5.（外国語運用能力）外国語を取り扱う専門分野では、外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を表現できる。	A. 知識・理解（専修分野の知識と理解）日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。 B-3.（技能の統合）資料体の構築、実証的な歴史像、歴史・地理認識の提示、書誌作成の高度な能力を統合し、研究対象を深く考察することができる。 B-4.（外国語運用能力）外国語を取り扱う専門分野では、外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を表現できる。	日本史学	＜日本史学＞	日本古代史特論I～IV、日本中世史特論I～IV、日本近世史特論I～IV、日本近代史特論I～IV、日本史特論I～IV、日本古代史研究I～IV、日本中世史研究I～IV、日本近世史研究I～IV、日本近代史研究I～IV、日本古代史史料研究I～IV、日本中世史史料研究I～IV、日本近世史史料研究I～IV、日本近代史史料研究I～IV、日本史史料研究I～IV、東アジア史領域横断研究Ⅰ～ⅩⅥ（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、東洋史・朝鮮史との合同授業として、教員、学生全員によるテキスト講読、あるいは研究報告と討論によって進行）	
		アジア史学	＜東洋史学＞	中国政治史特論I～IV、中国文化史特論I～IV、中国社会史特論I～IV、中国経済史特論I～IV、中国政治史研究I～IV、中国文化史研究I～IV、中国社会史研究I～IV、中国経済史研究I～IV、アジア内陸圏史研究I～IV、アジア海域圏史研究I～IV、東アジア史領域横断研究Ⅰ～ⅩⅥ（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、日本史・朝鮮史との合同授業として、教員、学生全員によるテキスト講読、あるいは研究報告と討論によって進行）	
			＜朝鮮史学＞	朝鮮古代史特論I～IV、朝鮮中世近世史特論I～IV、朝鮮近現代史特論I～IV、朝鮮文化史特論I～IV、朝鮮古代史研究I～IV、朝鮮中世近世史研究I～IV、朝鮮近現代史研究I～IV、朝鮮史史料研究I～IV、朝鮮文化史研究I～IV、朝鮮思想史研究I～II、東アジア史領域横断研究Ⅰ～ⅩⅥ（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、日本史・東洋史との合同授業として、教員、学生全員によるテキスト講読、あるいは研究報告と討論によって進行）	
			＜考古学＞	日本考古学特論I～IV、東アジア考古学特論I～IV、日本考古学研究I～IV、東アジア考古学研究I～IV、東アジア比較考古学研究I～IV、東アジア考古学・先史学領域横断研究I～IV（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、他学府所属を含めた教員、学生全員による研究報告と討論によって進行）	
		広域文明史学	＜西洋史学＞	ヨーロッパ史学特論I～IV（主として現代。最新のトピックを解説する特殊講義）、ヨーロッパ史学特論V～VI（主として中世）、ヨーロッパ史学特論VII～VIII（主として近代）、ヨーロッパ史学研究I～IV（主として中世。文献資料について解読し、成果を報告）、ヨーロッパ史学研究V～VIII（主として近代）、ヨーロッパ史学研究IX～XII（主として現代）、ヨーロッパ史学研究XIII～XVI（主として英米史）、西洋史学領域研究（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、イスラム文明史学領域研究との合同授業として、教員、学生全員による研究報告と討論によって進行）	
			＜イスラム文明史学＞	イスラム文化史特論I～IV、イスラム中世社会史特論I～IV、イスラム近世・近代社会史特論I～IV、イスラム文明史研究I～IV、イスラム近世・近代社会史研究I～IV、イスラム史料研究I～IV、イスラム史領域研究I～IV（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、西洋史学領域研究との合同授業として、教員、学生全員による研究報告と討論によって進行）	
		地理学	＜地理学＞	人文地理学特論I～IV、文化地理学特論I～IV、空間動態論特論I～IV、社会経済地理学特論I～IV、人文地理学研究I～IV、文化地理学研究I～IV、空間動態論研究I～IV、空間論領域研究I～IV（異なる専門領域の教員と学生が共同して取り組むチームラーニング型授業。現在は、教員、学生全員による研究報告と討論によって進行）	
A-1.（人文学と現代文化の理解）人文学の知識をもとに、現代文化のあり方とそれへの多様なアプローチを説明できる。			＜共通＞	現代文化論A～D	